

# 熊本県民の受動喫煙に関するアンケート調査

(日本禁煙学会雑誌: 7(3)83-92, 2012)

[http://www.nosmoke55.jp/gakkaisi/201206/gakkaisi\\_120629\\_83.pdf](http://www.nosmoke55.jp/gakkaisi/201206/gakkaisi_120629_83.pdf)



くまもと

禁煙推進

フォーラム

くまもと禁煙推進フォーラム

<http://square.umin.ac.jp/nosmoke/>

# 【背景】

- 受動喫煙は、癌、心臓病、脳卒中、呼吸器疾患など様々な疾患の発生危険因子であることが確立している
- 受動喫煙防止法を実施した諸国では、受動喫煙防止により心臓血管疾患や呼吸器疾患の発生が3～4割も減少している
- 熊本県の受動喫煙対策は不十分であると推測される

# 【目 的】

- 熊本県における受動喫煙の実態と受動喫煙に対する意向を知ること
- 今後の受動喫煙のための対策や行政への施策提言に役立てること

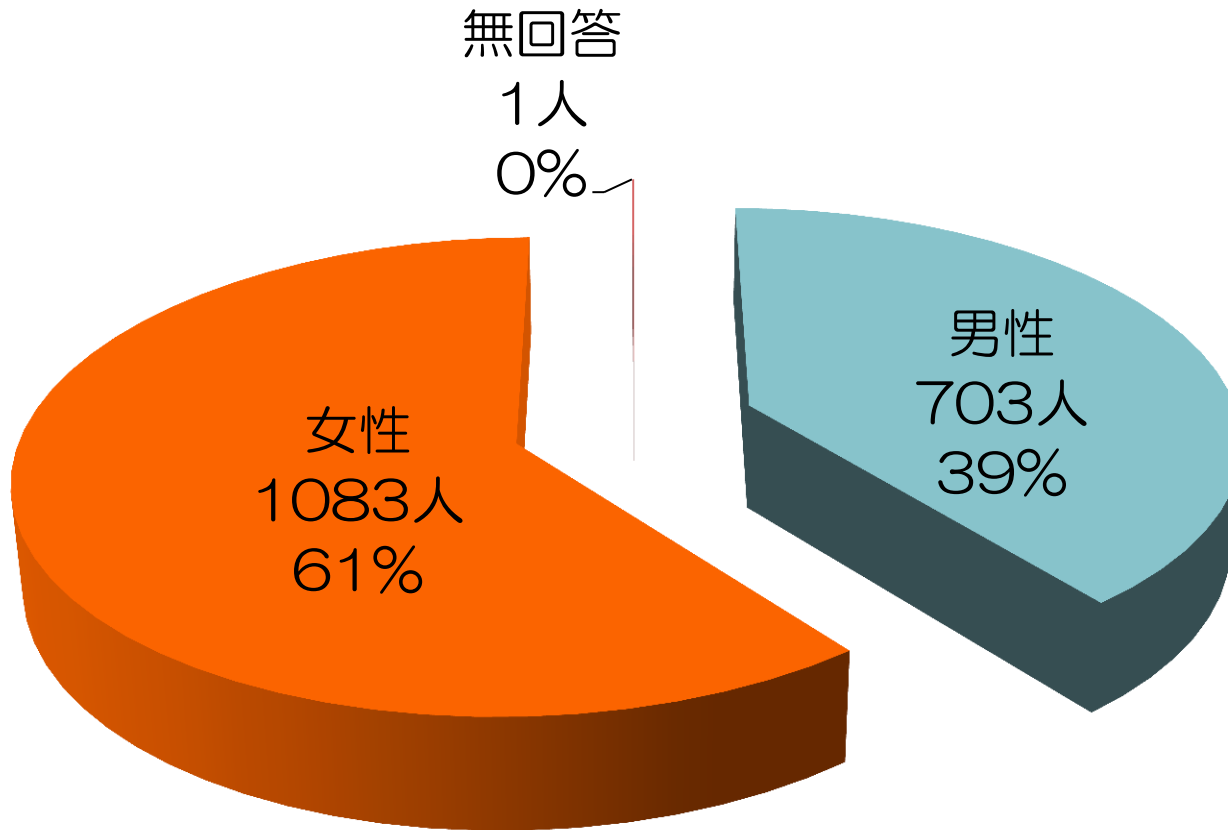
# 【方 法】

- 対象者 熊本県在住成人1787名
- 対象から除外した者
  - ▶ 回答への協力不同意：71名
  - ▶ // 「協力の意志欄」回答なし：435名
  - ▶ 年齢20歳未満：1名
  - ▶ くまもと禁煙推進フォーラム会員
- 研究期間 2010年4月～8月
- 方 法 自己記入式質問紙調査
- 熊本大学大学院生命科学研究部等疫学・一般研究倫理委員会承認（疫学第80号）

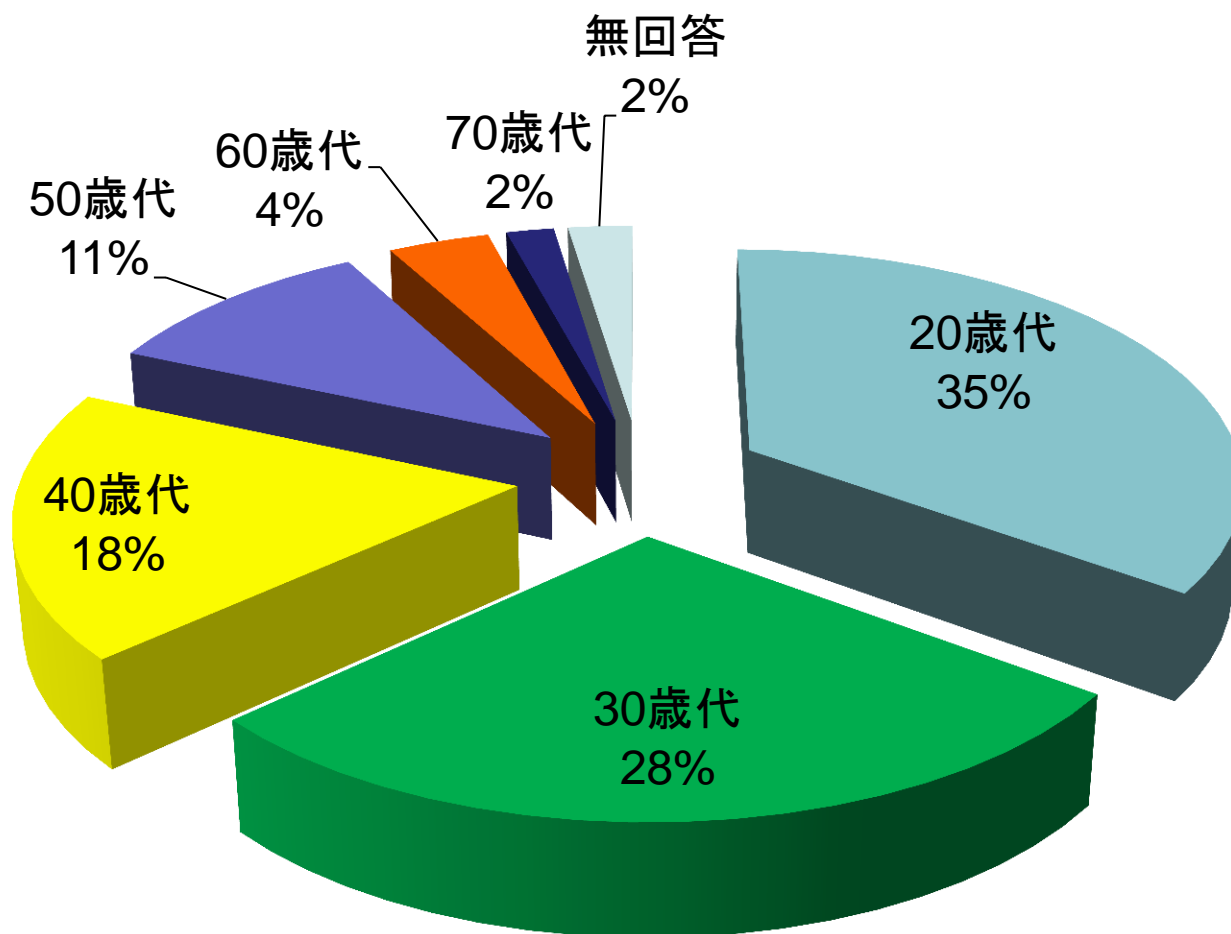
# 【調査内容】

- プロフィール  
年齢、性別、職業、年収、居住地域、インターネットやテレビの利用、健康状態
- 喫煙に関する事項  
喫煙歴、常習的喫煙開始年齢、同居家族の喫煙歴
- 受動喫煙に関する事項  
日常的受動喫煙曝露、曝露の場所、受動喫煙への認識  
受動喫煙が迷惑な場所、受動喫煙対策が不十分な場所  
受動喫煙・健康増進法・タバコ規制枠組み条約への認知  
飲食店での受動喫煙曝露後の行動

# 【回答者の性別】



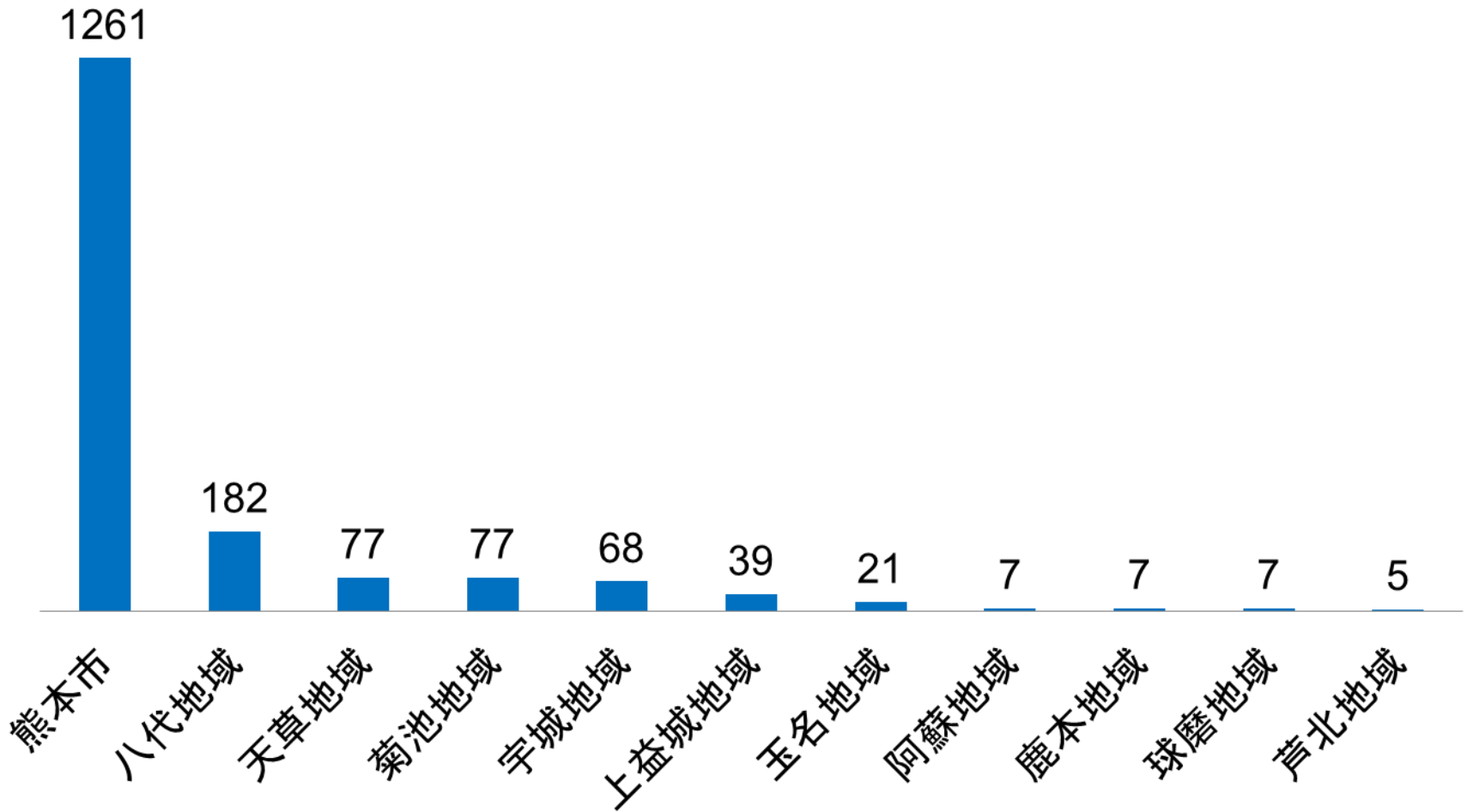
# 【回答者の年齢構成】



年齢,  $35.8 \pm 12.6$ 歳

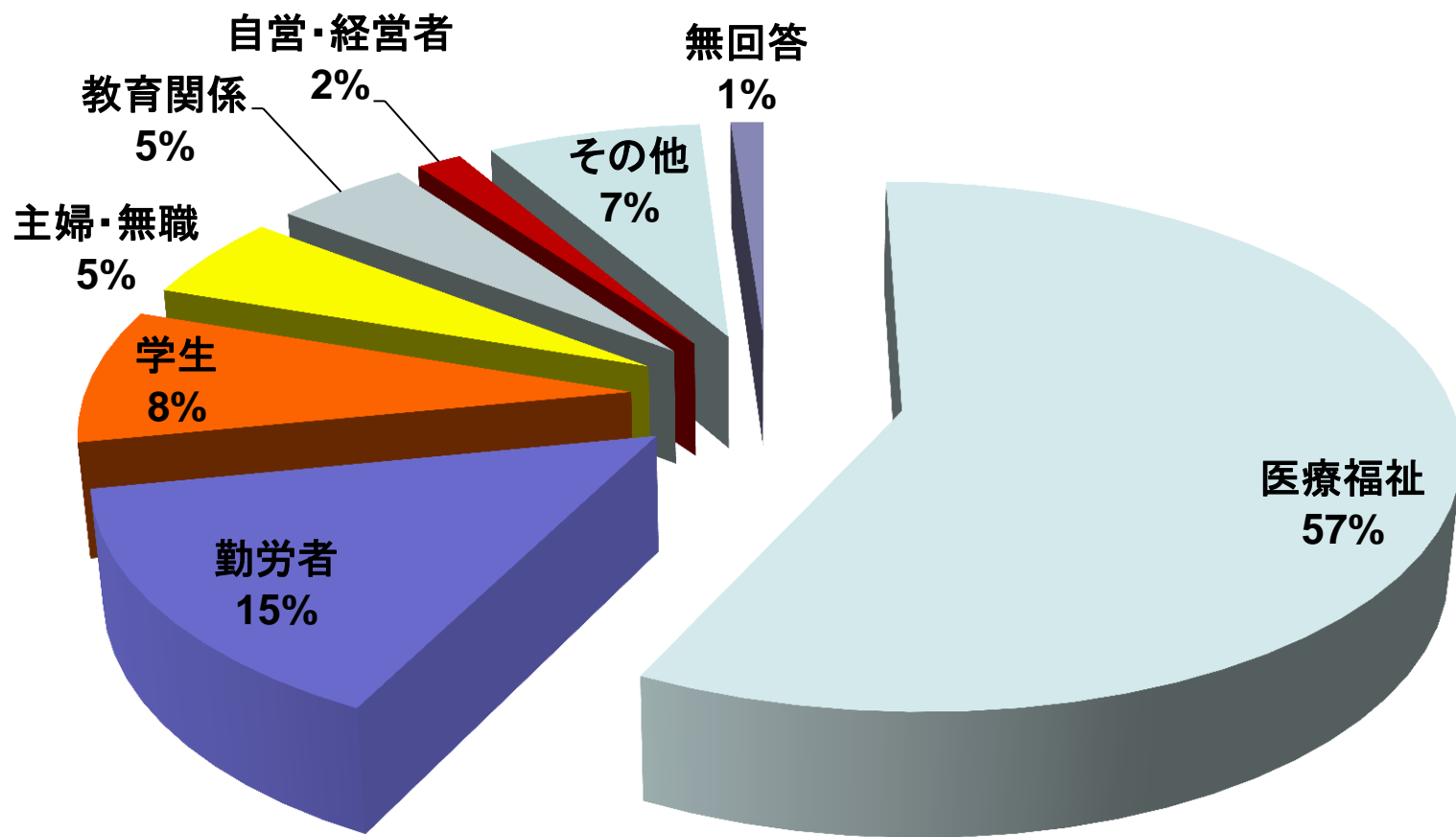


# 【回答者の居住地域】

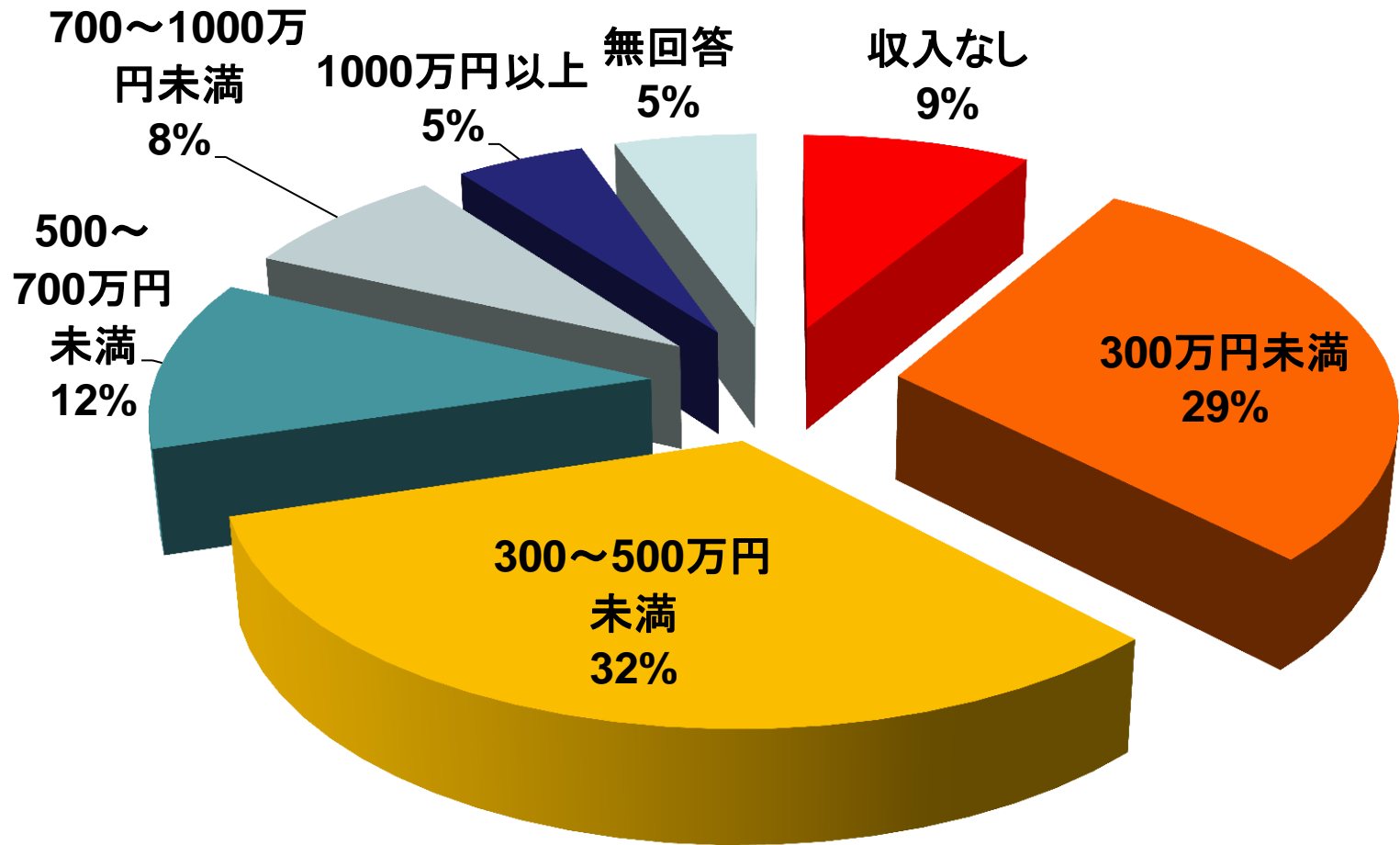




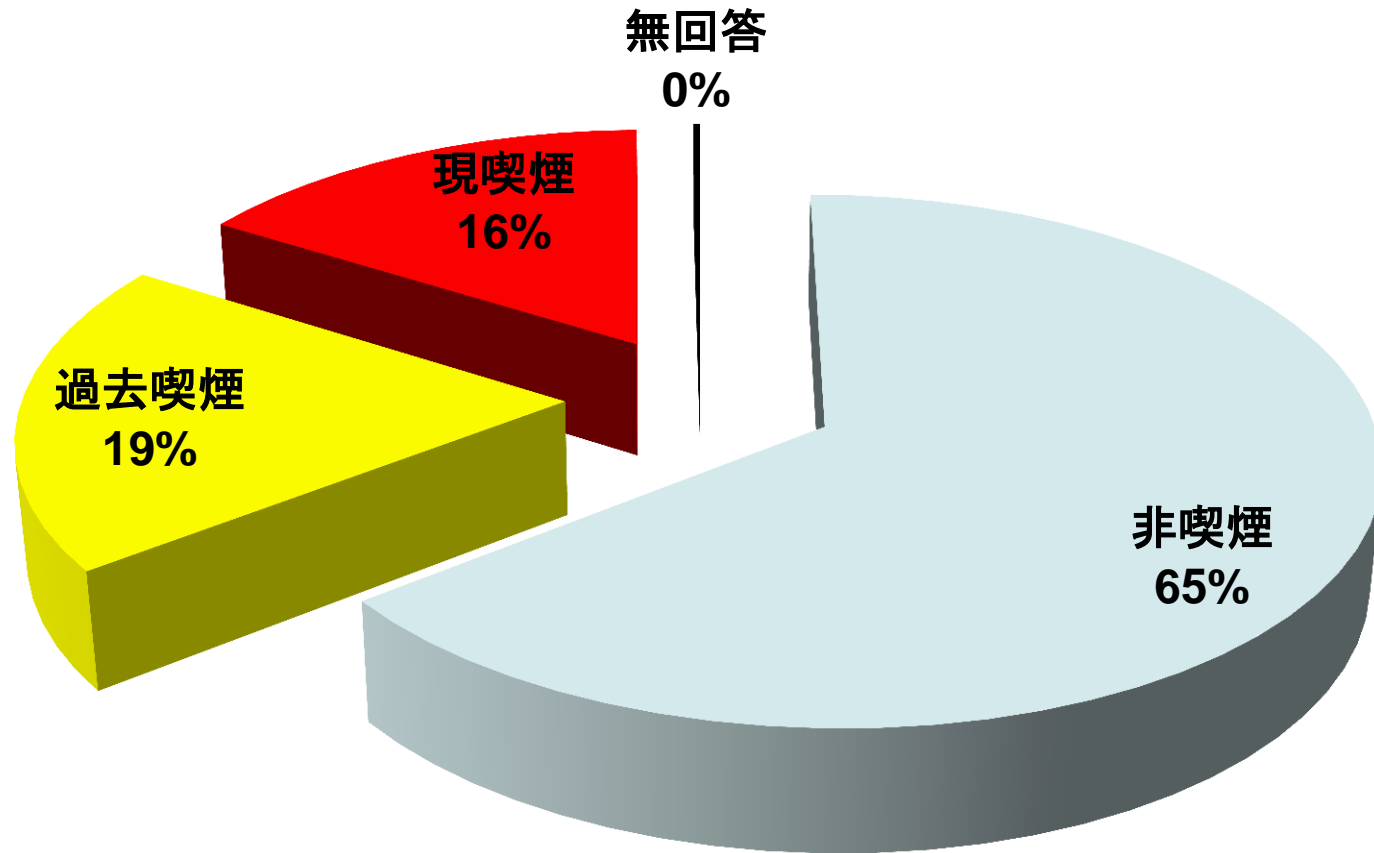
# 【回答者の職業】



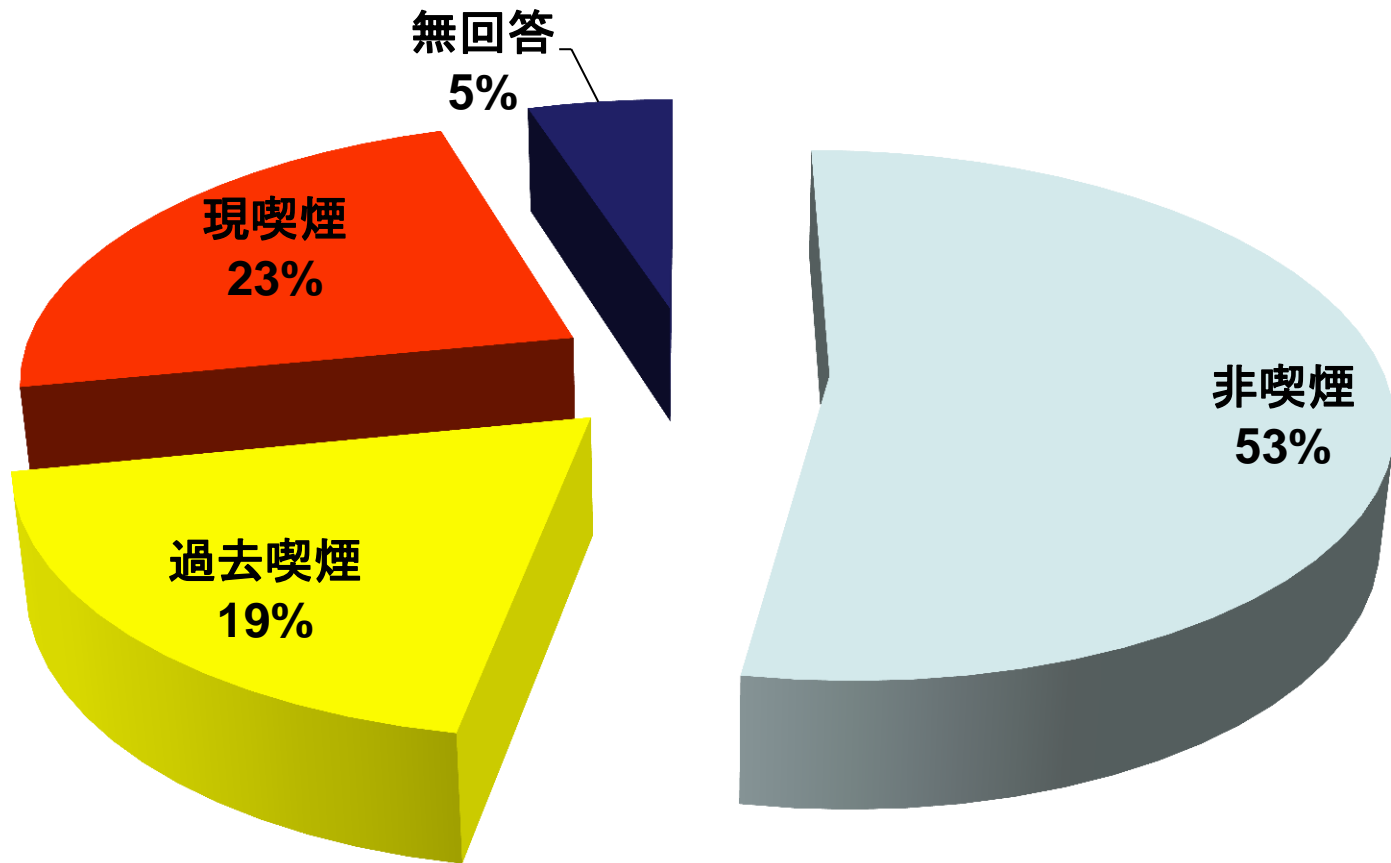
# 【回答者の年収】



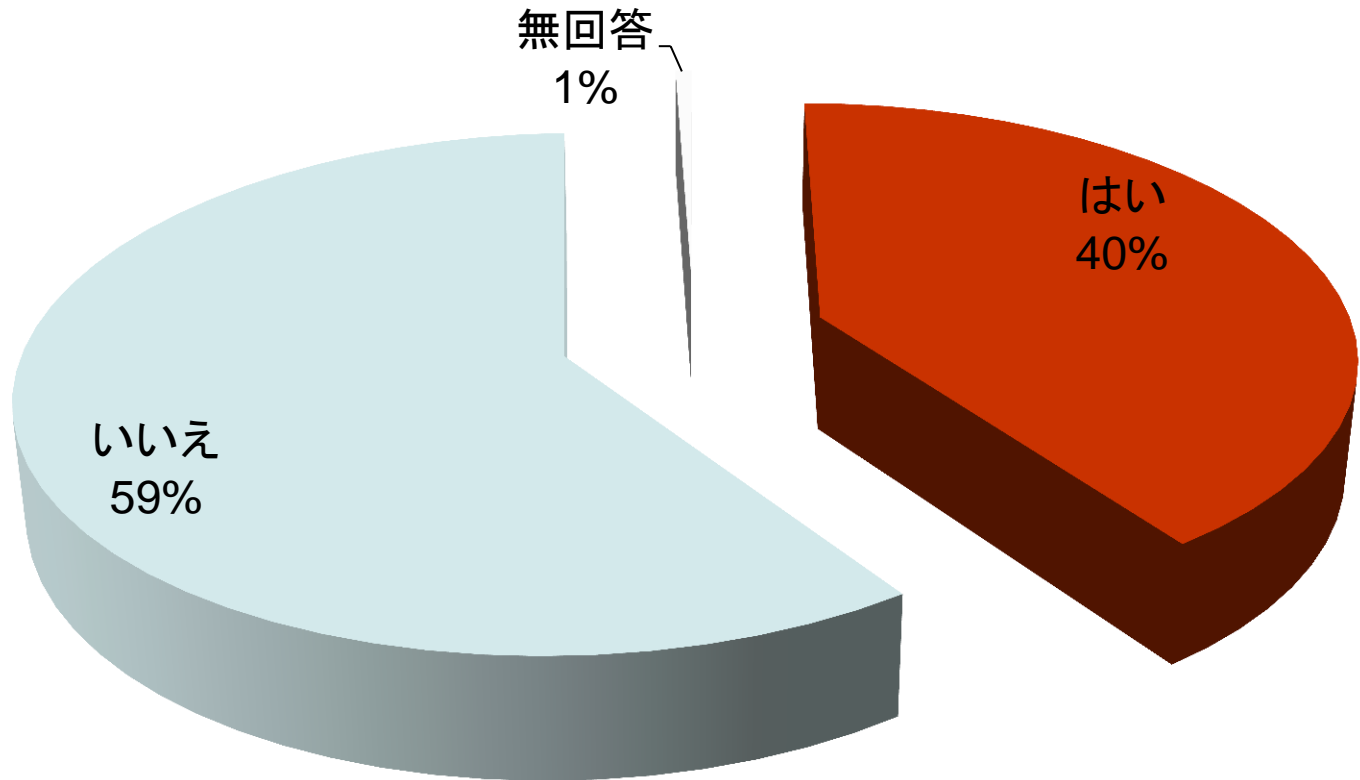
# 【喫煙しますか、あるいは喫煙したことがありますか】



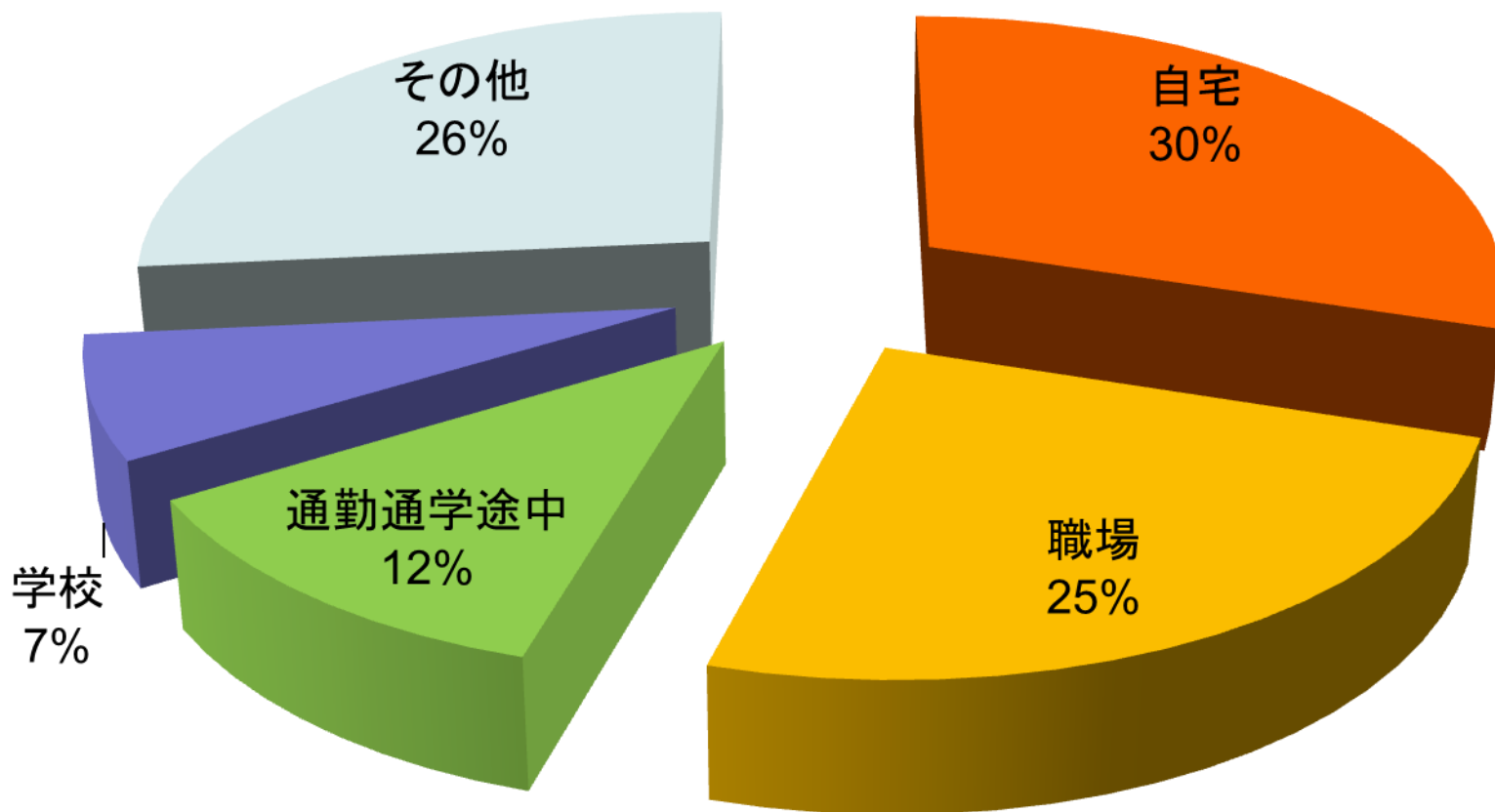
# 【同居家族で喫煙している（いた）人はいいますか】



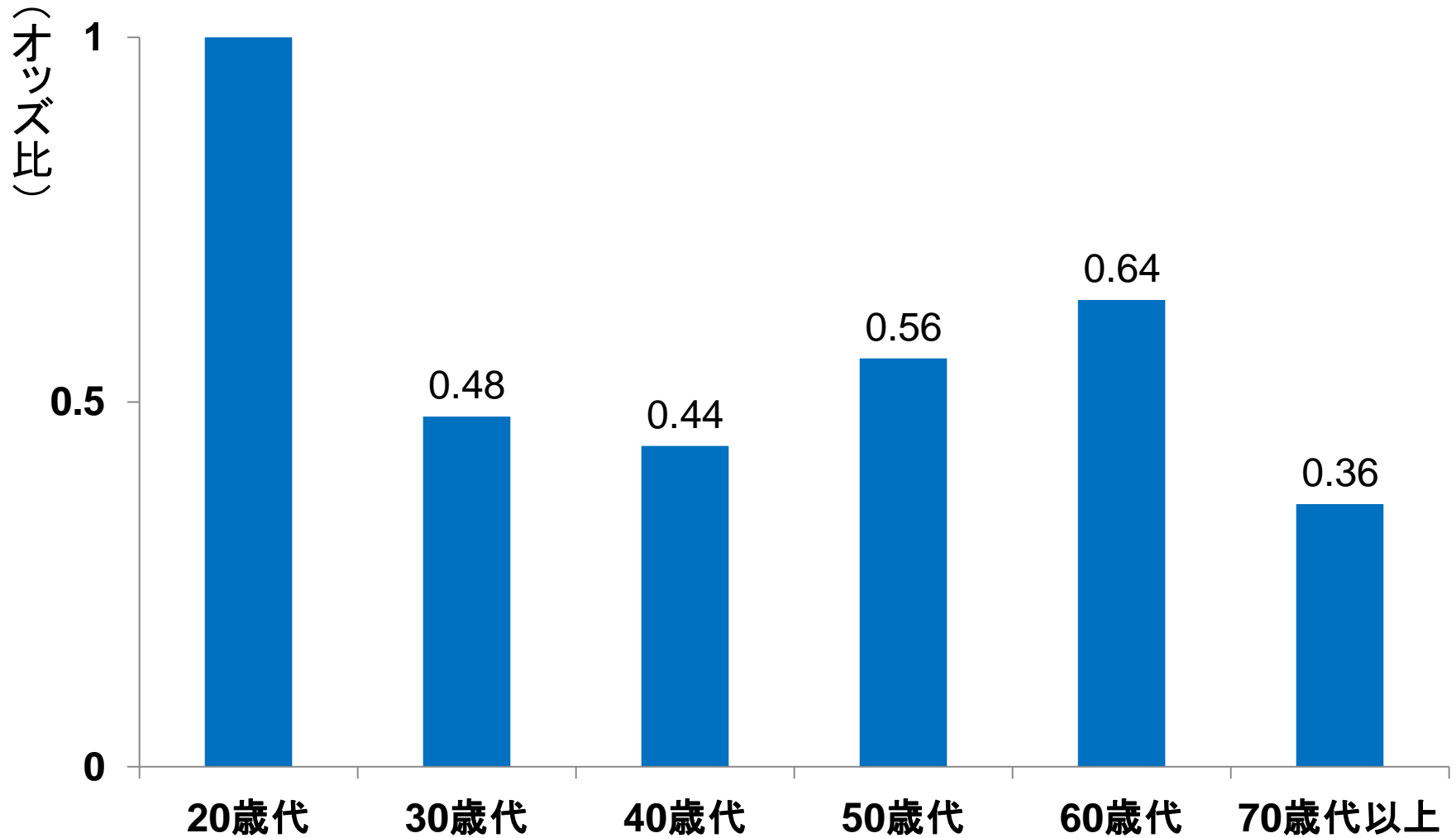
# 【日常的にタバコ煙を吸い込むことがありますか？】



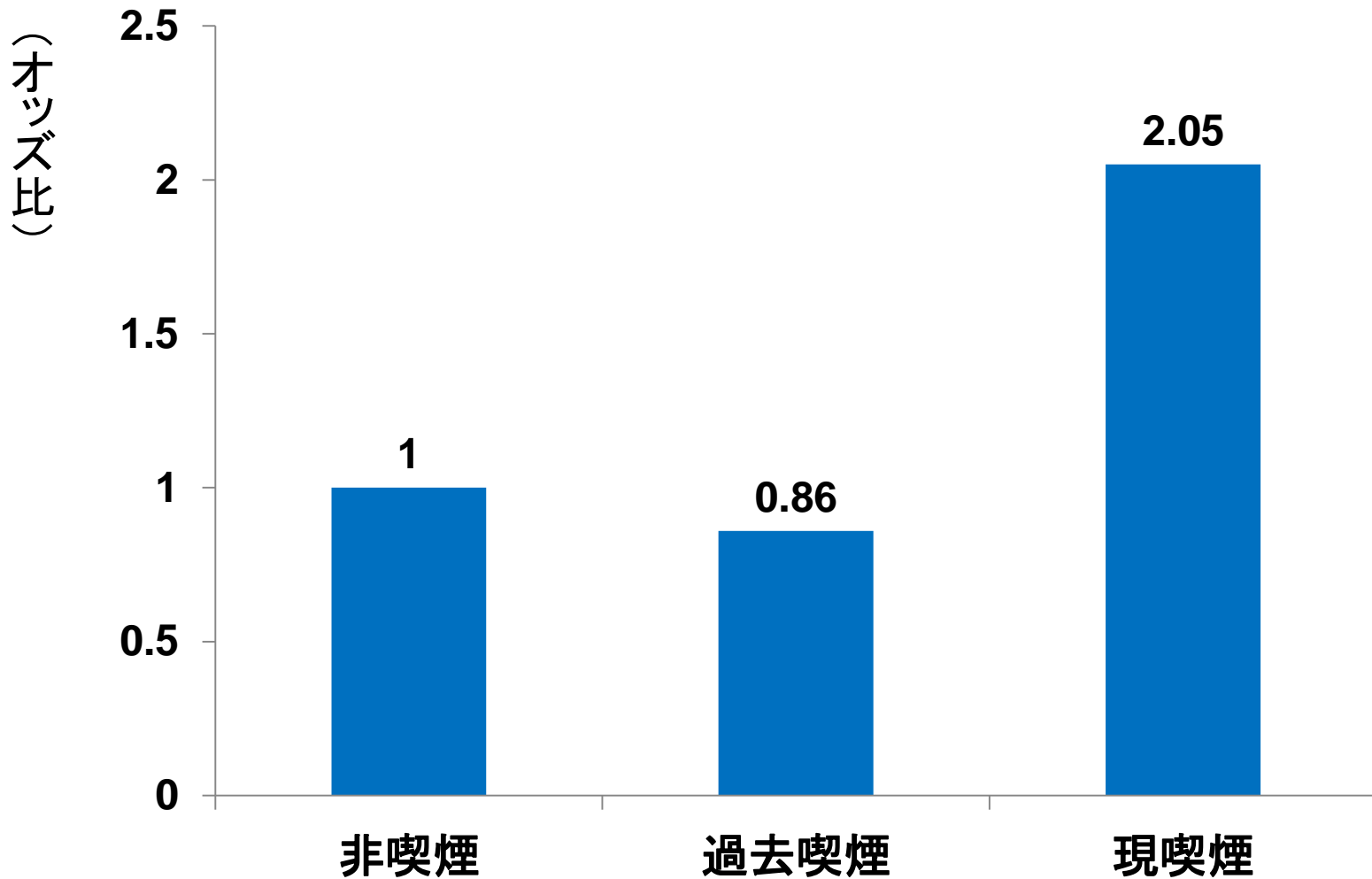
# 【他人のタバコ煙を吸い込むのはどこですか】



# 【受動喫煙を受けやすい要因（年齢）】

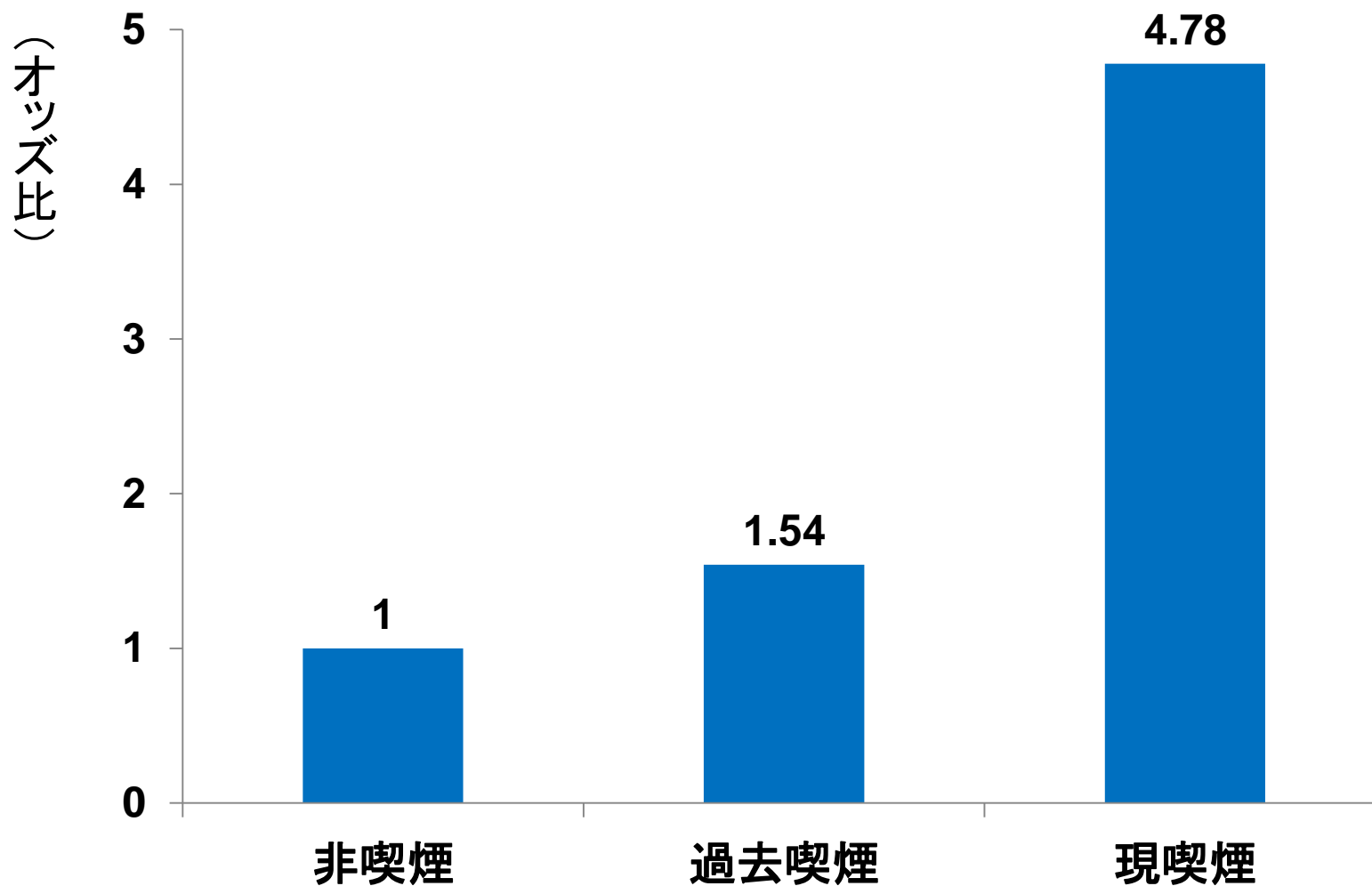


# 【受動喫煙を受けやすい要因（回答者の喫煙）】

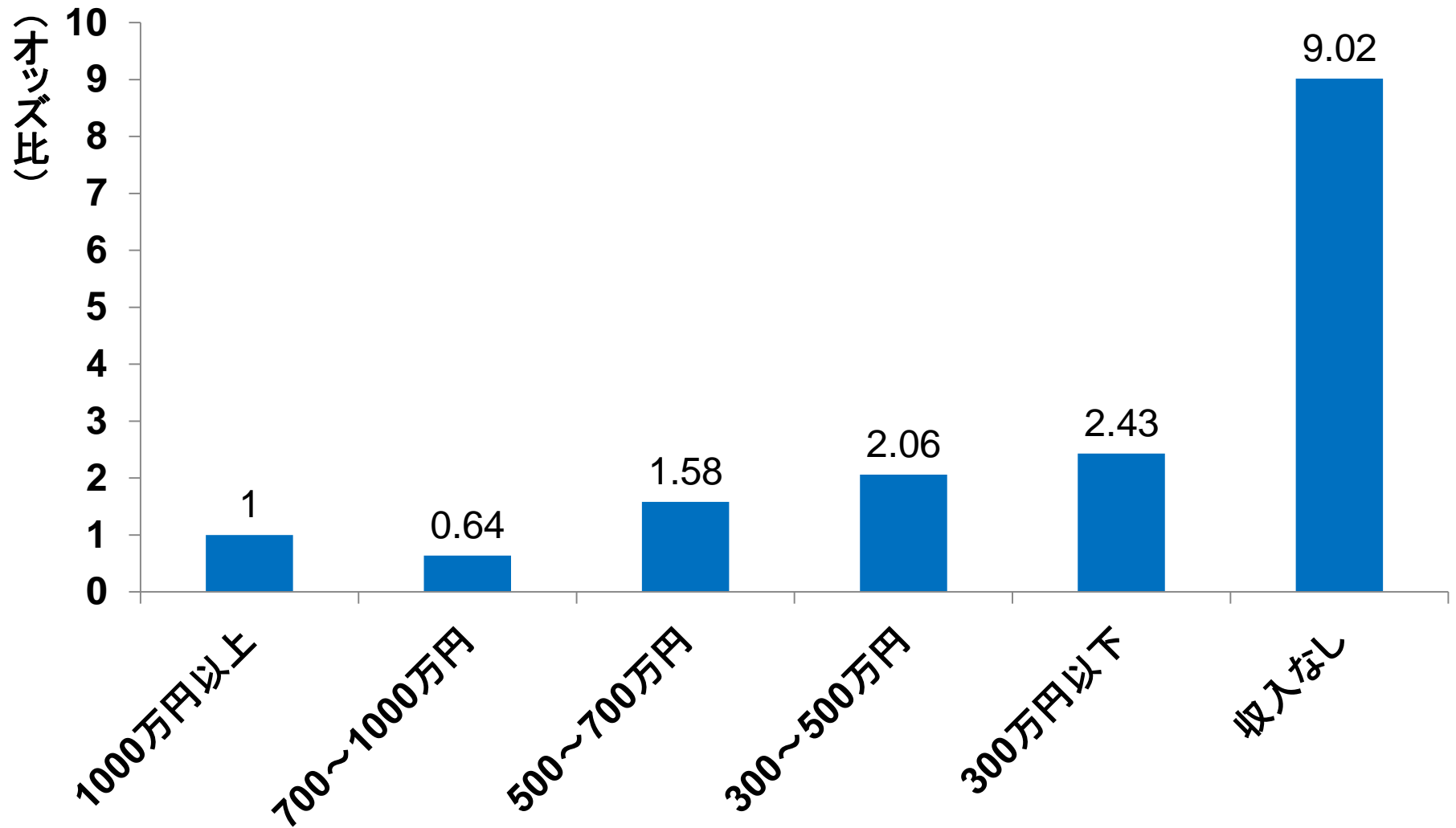




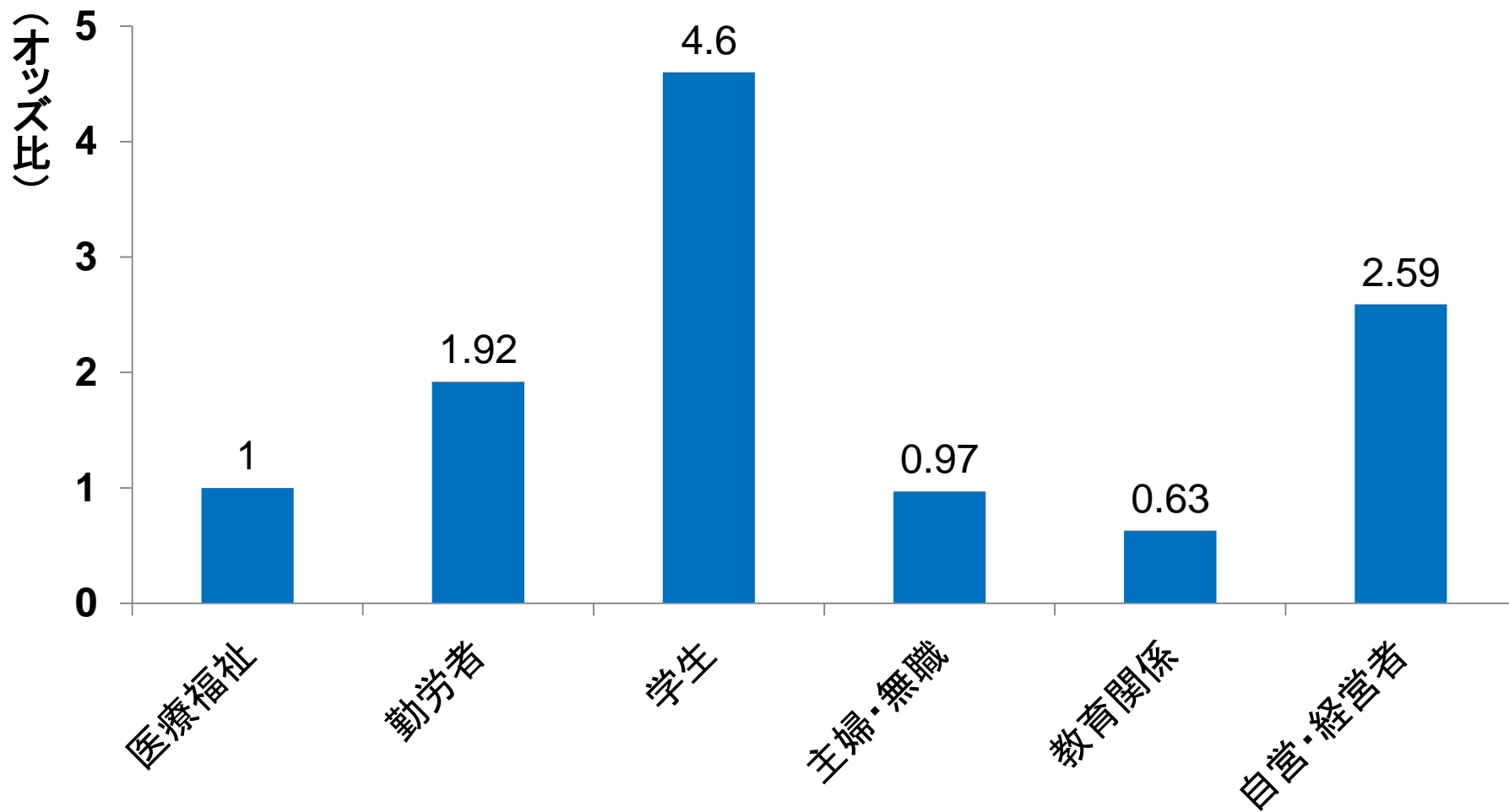
# 【受動喫煙を受けやすい要因（同居家族の喫煙）】



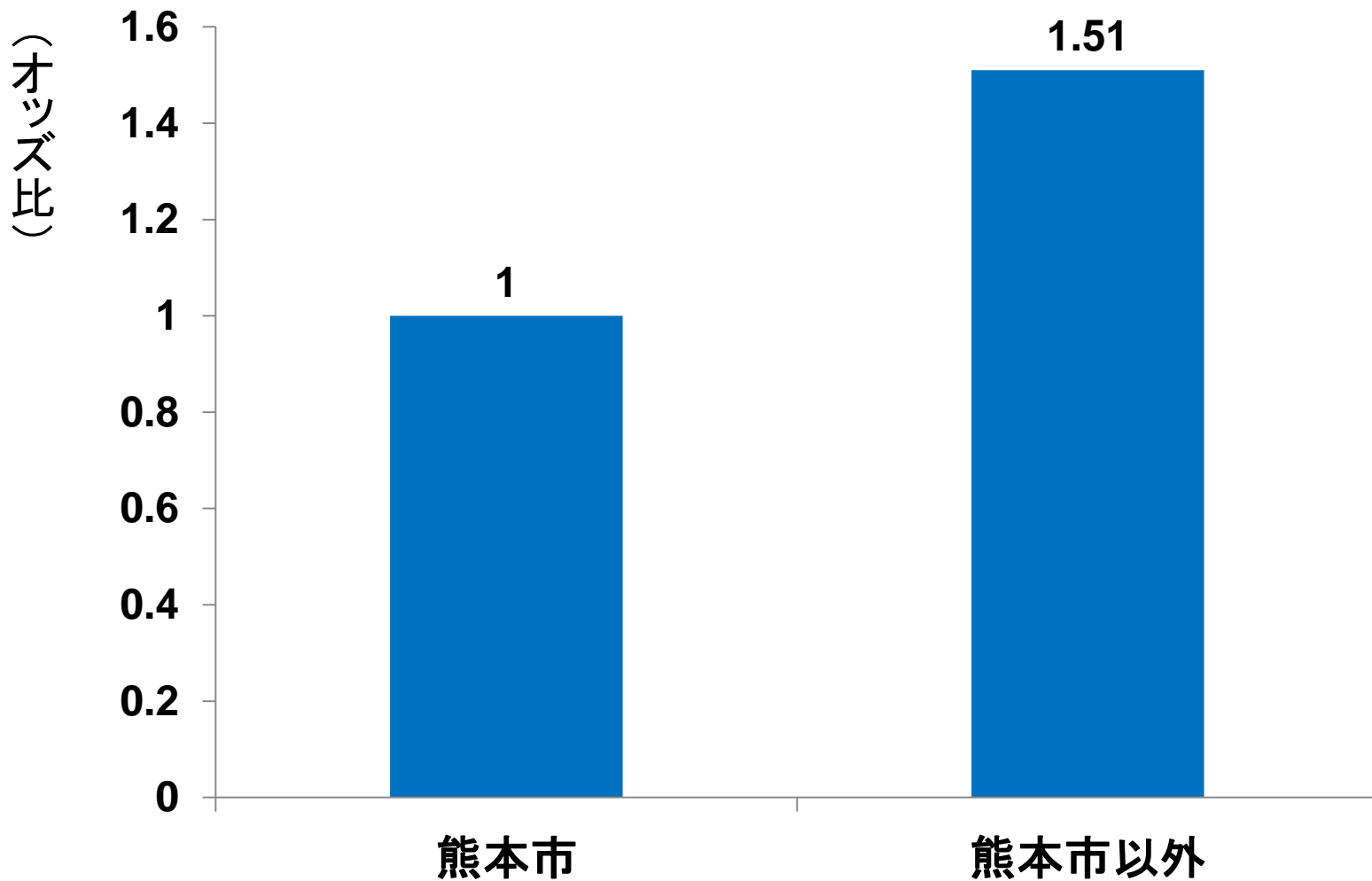
# 【受動喫煙を受けやすい要因（年収）】



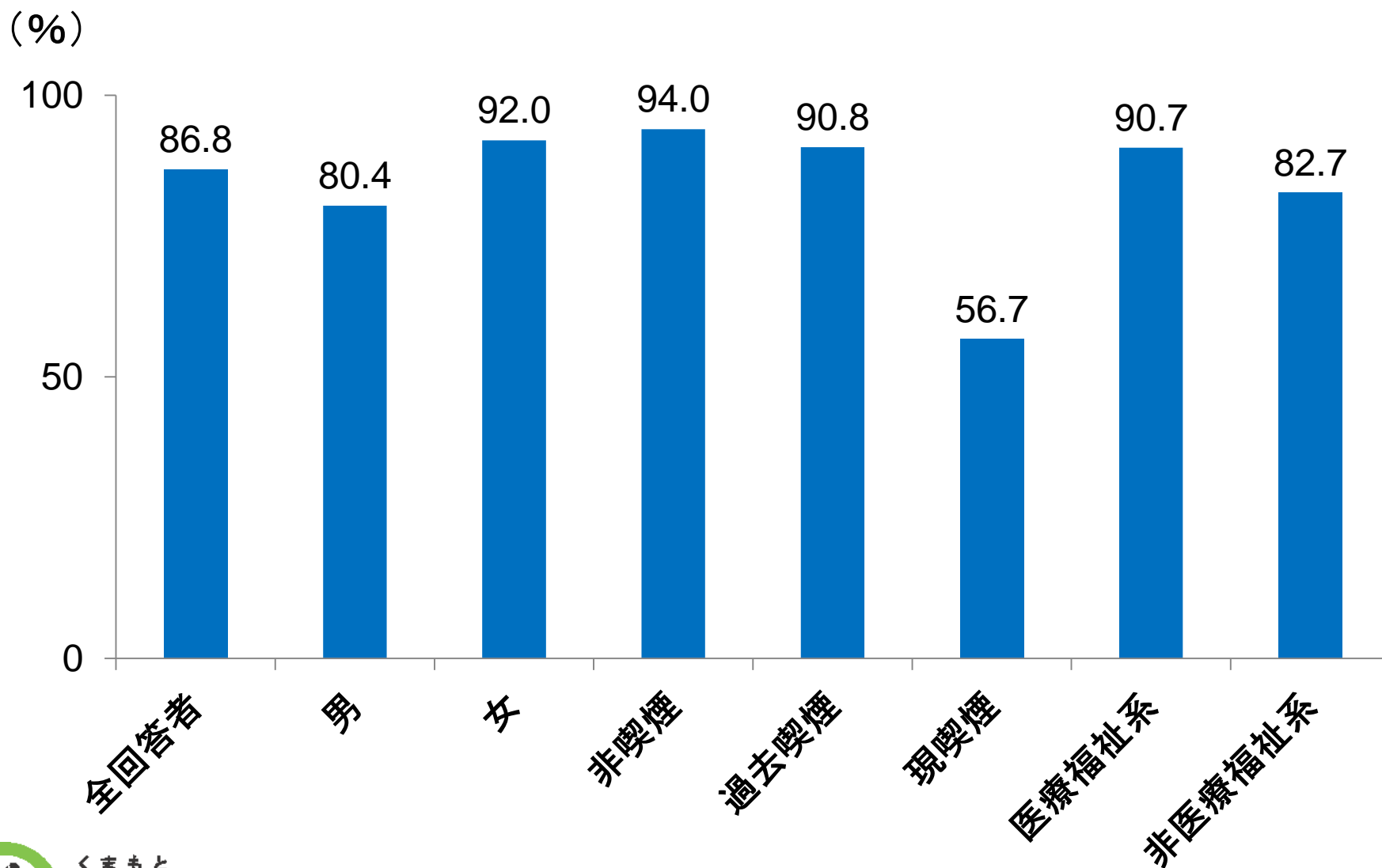
# 【受動喫煙を受けやすい要因（職業）】



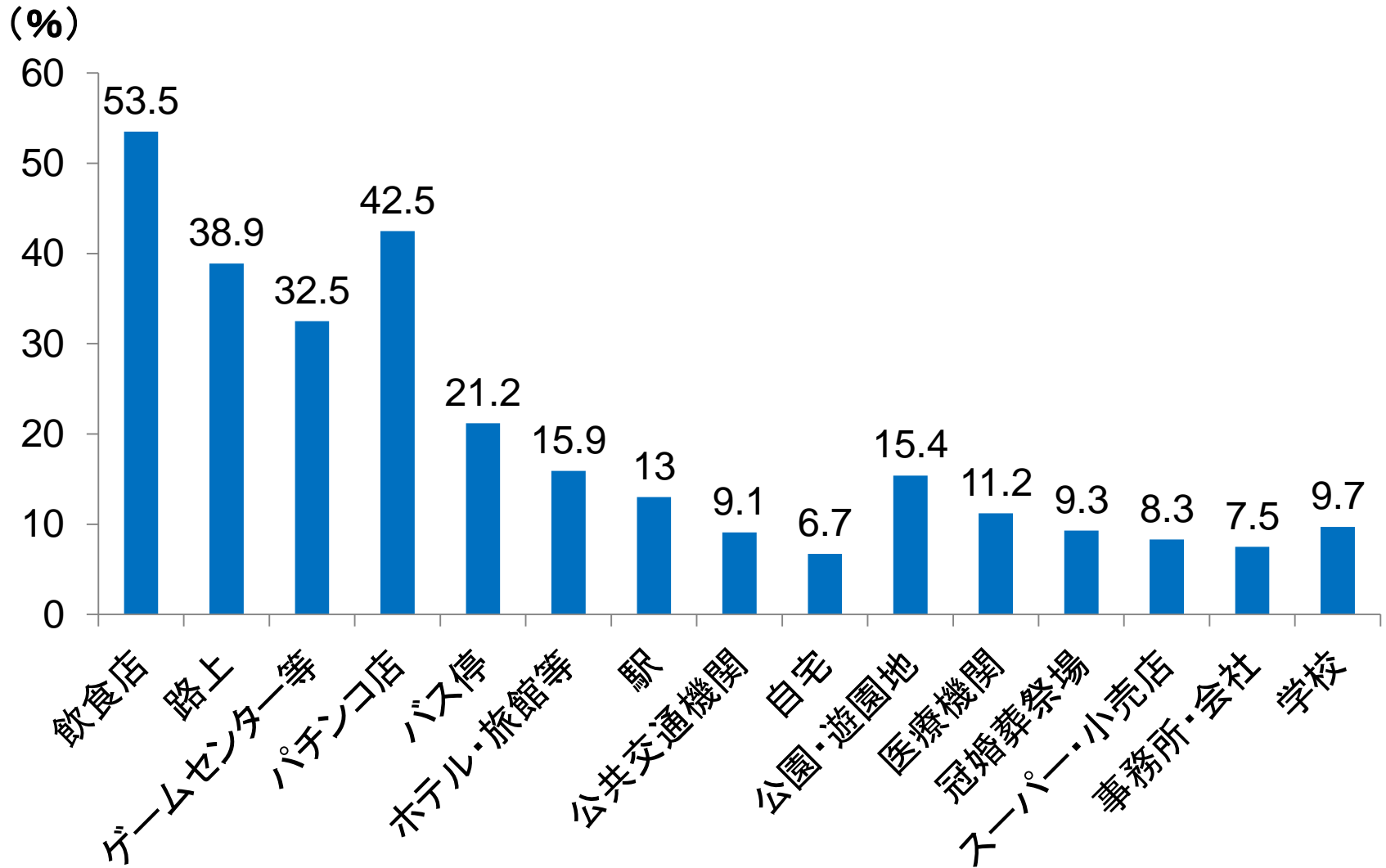
# 【受動喫煙を受けやすい要因（居住地）】



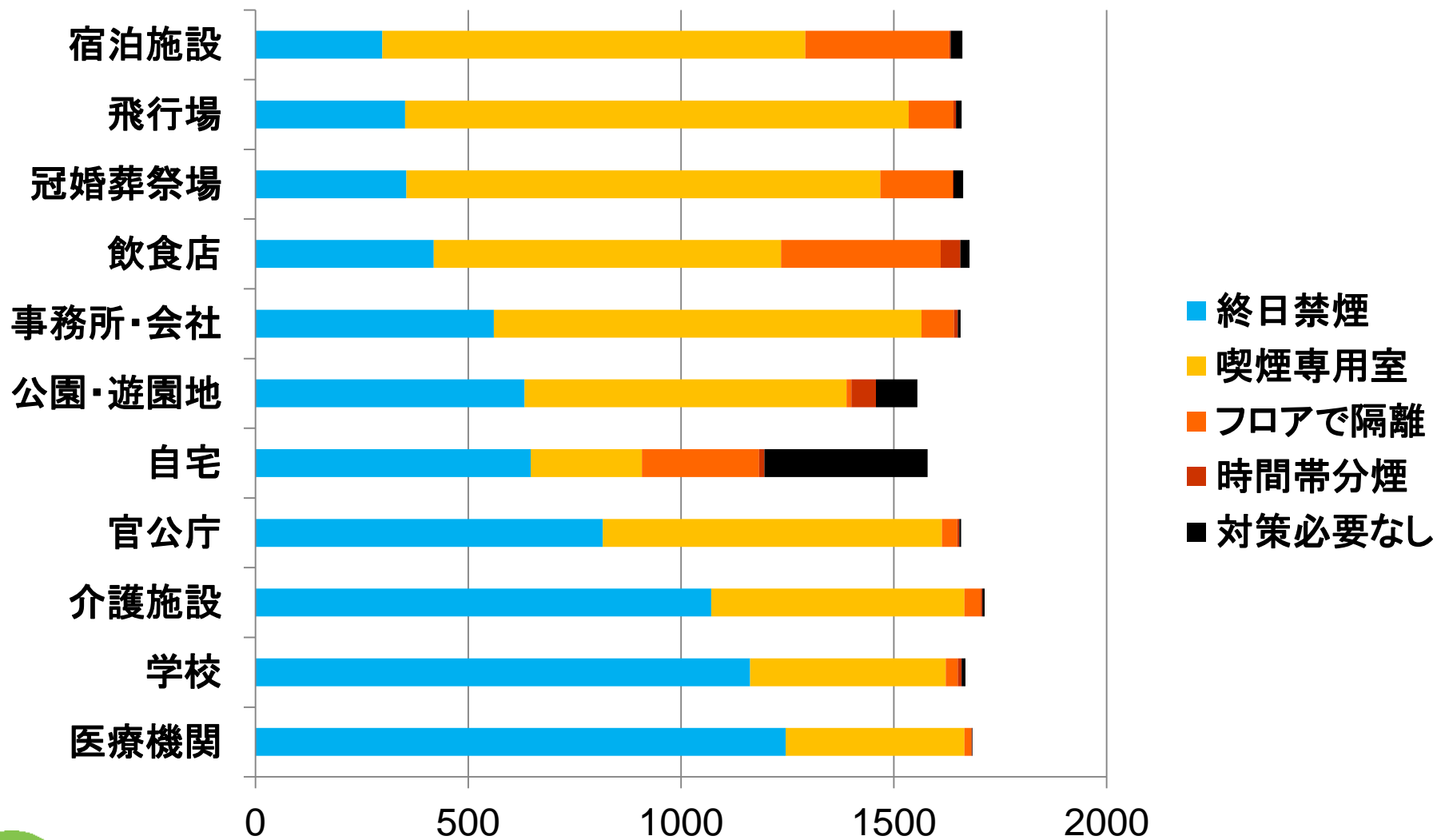
# 【受動喫煙を迷惑と感じる割合】



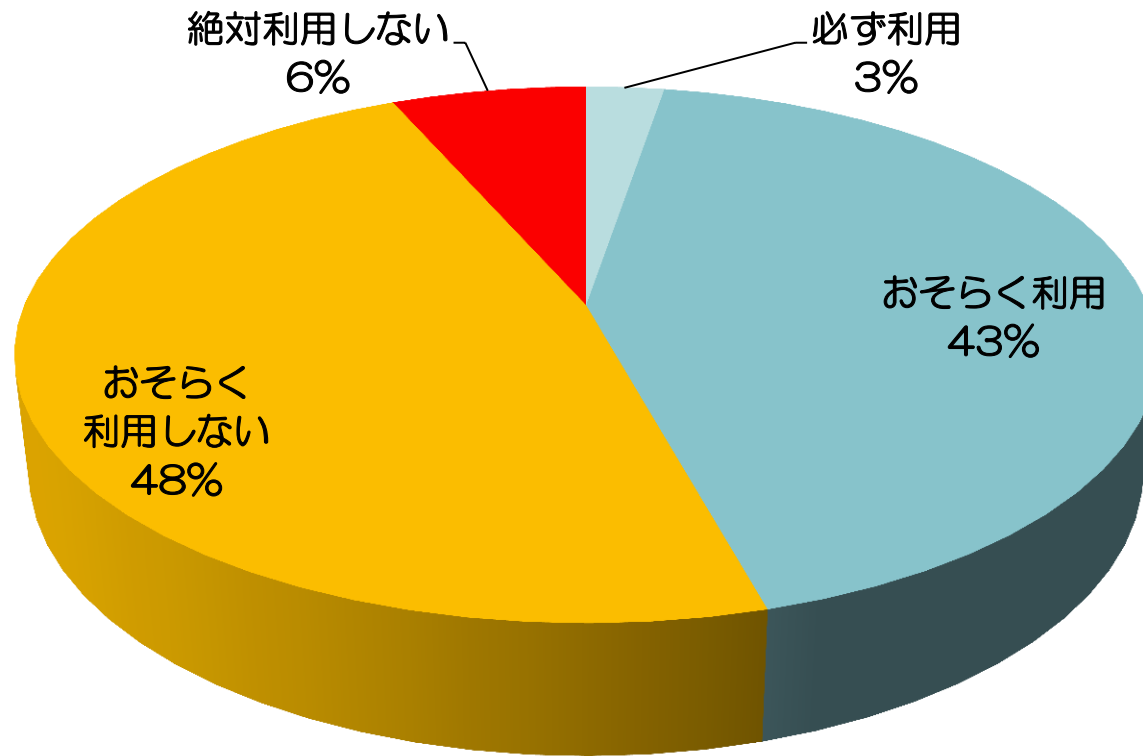
# 【受動喫煙対策が十分ではないと思う施設はどこですか】



# 【どのレベルの受動喫煙対策を望みますか】



# 飲食店で受動喫煙曝露を受けた後 同店を再度利用しますか



受動喫煙環境にある飲食店にとり、再来店者となり得る客の半数を失っている可能性がある



## 【まとめ】

- ① 対象者の40.2%が日常的に受動喫煙に曝露されていた
- ② 87.4%が受動喫煙を迷惑と考えていた
- ③ 喫煙者に限っても、56.7%が他人のタバコ煙を迷惑と  
考えていた
- ④ 受動喫煙に曝露されやすい因子は、20歳代、低収入、  
学生、自営・経営者、勤労者、居住地が熊本市以外であ  
った
- ⑤ 受動喫煙対策が不十分であると思う施設は、飲食店、パ  
チンコ店、路上の順であった
- ⑥ 完全禁煙を求める割合の高い施設は、医療機関、学校敷  
地、介護施設・老人ホーム、官公庁等公的施設の順であ  
った



## 【結 語】

- ① 調査対象者の 4割以上が日常的に受動喫煙に曝露されていた
- ② 受動喫煙規制は市民の賛同を得ていると考えられた
- ③ 保健・行政活動と広報が重要である
- ④ 社会的に喫煙規制を実施しやすいところは、医療・介護施設、学校、官公庁であると考えられた

